



お祭り座談会

～地域文化の継承を考える～

お祭りに対する「イメージ」や「思い」を聞かせてください。

池田 幼いころの私にとってお祭りは一大イベントであり、多くの人が集まるとても賑やかなイメージがありま

す。ただ、地元のお祭りしか参加していなかったもので、市長になってから「中野市って

お祭り多いよね」と言われたことから、各地区にお祭りがしつかりと伝承されているという

ことも大切だと思います。

お祭りの実情や苦勞されることは何ですか。

中村 約50年前から保存会として活動しており、今は45名

ほどの方が常時参加してくれています。継者が減っていることですが、一番の問題は後継者が減っていること



加していないのが実情です。湯本 厳しい実情もあります。が、祭りは貴重な文化財なので私たちの時代で終わらせてしまつては大変もつた

継承に必要なことは、どういったことでしょうか。

田中 私の住む地域では、保存会の人と子どもたちが祭りに参加しますが、男の子しか参加してはいけないといったルールがありました。今では

まりを作ることなく、どんな人でも希望する人には参加できるように変えられたらいいなと思いました。

池田 私が横浜に住んでいるときに、「祭りだから田舎に帰ります」という人がいたのを覚えています。お祭りの文化は、たとえ市外へ出ていく人でも地域とのつながりを残しておく一つの方法ではないでしょうか。先日、赤岩区のお祭りに行った際、「祭りのために帰ってきた」と、全く同じことを話す方がいて、とても感動しました。祭りは、地区ごと独自に行いますが、市全体としても財産です。まずはほかの地区でどんな祭りが行われているか「知ってもらう」ことが大切ですね。



からお祭りに関わることで次の継承につながっていきけるのではないかと考えています。湯本 赤岩地区のお祭りは毎年10月7・8日に行われますが、その際には小学校がお休みになります。そのため、どの子もお祭りに参加できるというのは、ほかの地区ではないことではないでしょうか。その年の干支の人は全員参加するなどの仕組みも出来上がっており、8日の昼は山車が里宮から中社へ練り歩くのですが、その沿道には平日・休日を問わず約千人の人が集まります。

最後に、皆さんにとってお祭りがどうなっていてほしいですか。

田中 伝統ですし、私たちがおじいちゃんおばあちゃんになっても子どもたちに興味を

持っていてもらえるよう、今から、老若男女問わずに伝承していけるようにしていきたいです。そのためには、やりたいという希望のある人がどんどん参加できる環境づくりが必要だと思います。

出川 祭り文化は継承していくべきだと自分も思います。地域の中では、「よそのところに参加するのは失礼」という考えもあるのですが、皆さんと話してみても、やっぱりいろんなお祭りに参加して行くことが大切だと思いました。

田中 私もそう思います。見に行きたいんだけど、違う地区だとシークレット感があるので、チラシとかでほかの地域の祭りの情報を得たりできると良いですね。

池田 まさに「見に来ていただくだけ」でもいいんです。見てもらうことでその地域が活気付くと思いますね。

中村 そうですね。見に来ていただき、獅子舞などの出番



が増えれば、その分練習するということにもつながると思います。市でも設備の援助も含め、イベントや交流会などを企画し、出演させてもらえるように計画してもらえればありがたいです。出るからには練習すると思うので、そういった環境も地域の「誇り」や「自慢」になり、継続につながっていくと思います。

湯本 ほかの地域のお祭りを見る機会は少ないと思うので、県外のお客さんにも見に来てもらえるようにしたいですね。天領時代のころから受け継がれている文化なので、堂々と皆さんに見ていただき、お祭りを大きな商品として観光客にも来ていただくことで、お祭り文化も今後継

承していくことができるのではないのでしょうか。また、観光客が来るということは、自然とお金も動くようになるので、地域も潤い、町全体も潤っていくのではないかと私は思います。特に、海外の方には日本の地域文化として、とても喜んでいただけるのではないのでしょうか。

池田 湯本さんからもありましたが、知恵を絞って、伝統を守っていくことが、行政として大切なことのひとつだと思います。また、地域のお祭りを知っていただき、来ていただくことで、この地域の良さを感じてもらい、それによって「来た方とのつながりを残していく」仕組みを作っていくことも大切だと思います。全国の大きなお祭りに目が行きがちですが、「地元」にこれだけのお祭りがあるんだ」ということに私も感動しています。伝統がこの地域に息づいていることを認知していただき、生き生きと祭りに参加してもらい、市の財産として残していきたいですね。

皆さんもお祭りに興味が高まってきませんか。さあ、各地域自慢の「おらほの祭り」に出掛けてみましょう。